

青少年教育指導者等の育成・研修事業

「大阿蘇青少年リーダー塾」

(ボランティア・自然体験活動補助指導者養成事業:文部科学省委託事業)

- 【主催】 国立阿蘇青少年交流の家
【後援】 九州各県・政令指定都市教育委員会
【期間】 ボランティア・自然体験活動補助指導者養成研修会
平成23年6月18日(土)～19日(日) 1泊2日
ボランティアスキルアップ研修会
平成23年10月1日(土)～2日(日) 1泊2日
【実施場所】 国立阿蘇青少年交流の家
【参加者】 ボランティア・自然体験活動補助指導者養成研修会100名
(高校生55名, 大学生35名, 一般10名)
ボランティアスキルアップ研修会81名
(高校生61名, 大学生14名, 一般6名)
【講師】 講義「青少年教育の理解と学校教育における体験活動の意義」
「ボランティア活動の意義」
日本ボランティア学習協会
代表理事 興梠 寛 氏
(大学生以上対象)
熊本市国際交流振興事業団
事務局長 八木 浩光 氏 (高校生対象)



1 趣 旨

青少年教育施設におけるボランティア活動の基礎を培い、ボランティアとしての態度や能力を育てるとともに、自然体験活動補助指導者養成研修をとおして、自然体験活動の補助指導者としての資質を高めることにより、ボランティア活動と自然体験活動の充実と普及を図る。

2 目 標

ボランティア及び自然体験活動の補助指導者としての資質と意欲を高める。

3 事業展開

(1) ボランティア養成研修・補助指導者養成研修プログラム

日程	午 前	午 後	夜
6/18 (土)	○開会行事 10:00 ○講義 「青少年教育の理解と体験活動の意義」(高校生と大学生以上に分かれて実施)	○講義 「ボランティア活動の意義」(高校生と大学生以上に分かれて実施) ○講義・実習 「救命救急法」	○講義 「青少年教育施設の現状と運営」 ○講義 「青少年教育施設におけるボランティア活動及び教育課程と体験活動の関連性」(高校生と大学生以上に分かれて実施)
6/19 (日)	○講義・実習 「体験活動の指導法と安全管理(阿蘇のフィールドを生かした体験活動の指導法と安全管理)」	○講義・実習 「体験活動の指導法と安全管理(阿蘇のフィールドを生かした体験活動の指導法と安全管理)」 ○閉会行事 14:00	

(2) ボランティアスキルアップ研修プログラム

日程	午 前	午 後	夜
10/1 (土)	○開会行事 10:30 ○講義 「青少年教育施設におけるボランティアの役割1」	○実習 「阿蘇地域における環境美化活動」	○実習 「野外調理」 ○講義・演習 「青少年教育施設におけるボランティアの役割2(アクティビティの企画・準備)」
10/2 (日)	○実習 「青少年教育施設におけるボランティアの役割3(アクティビティに関わる指導・支援)」 ○閉会行事 11:30		

(1) 目標達成のための工夫

① ボランティア活動の理解を深める工夫

ボランティア活動の意義や重要性をしっかりと理解できるように、ボランティアに関わる理論や豊富な知識・経験を持つ講師に指導していただいた。自らの理論や実践などについて講義をしていただくことでボランティア活動の理解を深め、意欲を向上させることができると考えた。特に講師が体験されている東日本大震災や国際交流事業でのボランティア活動の実際について伝えていただくことは、指導の効果が大きいと考えた。また、高校生と大学生・一般を分け、それぞれ実態に応じた講義を行うことで、内容を焦点化しながら少人数での指導ができるようにし、参加者一人一人がボランティア活動の理解を深められるようにした。



② ボランティアスキルアップ研修の実施と充実

ボランティアを育成するためには、青少年教育及びボランティア活動の理解や、ボランティアとしての実践的な態度や技能の定着など様々な研修が必要である。そこで本事業においては、2回シリーズで実施し、1回目をボランティア・自然体験活動補助指導者養成研修、2回目をボランティアスキルアップ研修として位置付けた。1回目には、主に施設ボランティアや自然体験活動補助指

導者養成に必須の研修を実施し、2回目には施設ボランティアや自然体験活動補助指導者としてのスキルを高める研修を行うようにした。本事業を2回に分けて実施したことで研修時間も十分に確保できるようになり、ボランティアスキルアップ研修会では、阿蘇地域における環境美化活動やアクティビティの企画・立案やその指導・支援、野外調理などの研修を行い、ボランティアや自然体験活動補助指導者としてのスキルが高められるようにした。特に、阿蘇地域における環境美化活動においては、道路わきや街中のごみ拾いをとおして、地域の環境の実態や環境に関わる課題について知り、地域の環境美化の大切さを理解させるようにした。また、アクティビティに関わる指導・支援においては、他の事業に参加している幼児に参加者が自分たちで企画したアクティビティを体験させるようにし、指導への意欲と実践力を高めるようにした。



阿蘇地域における環境美化活動

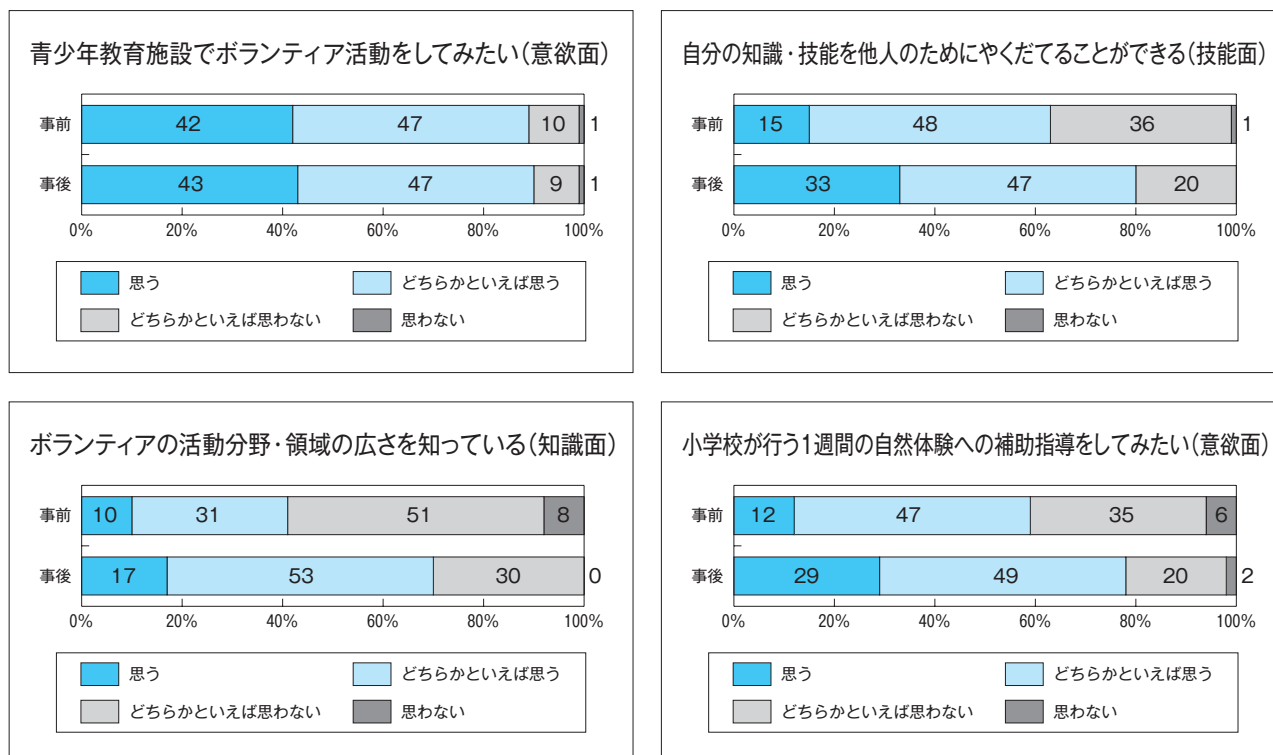
③ 自然体験活動補助指導者養成研修の実施

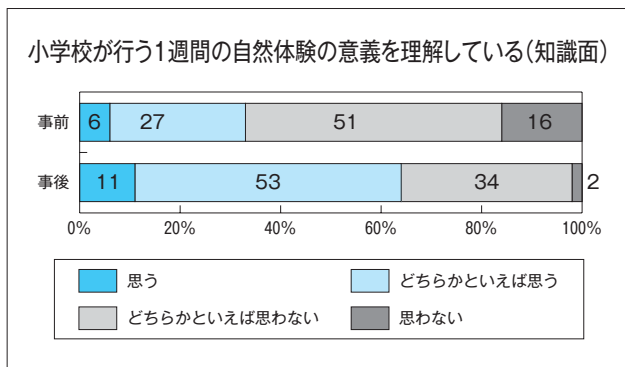
本施設において教育課程に位置付けられた教育活動として自然体験活動を行う学校団体は大変多いと言える。また、本年度1週間程度の長期自然体験活動を行った小学校が4校あり、今後長期自然体験活動の更なる普及を図る必要があると考えている。そのようなこともあり、ボランティア養成研修と併せて自然体験活動補助指導者養成研修を実施した。このことにより、参加者が施設ボランティアに必要な研修だけでなく、学校教育における体験活動の意義や教育課程と体験活動の関連性など自然体験活動補助指導者に必要な研修も受けられるようにした。研修終了後は、自然体験活動補助指導者養成研修の修了証が発行されることから、参加者の自然体験活動への指導に関わる研修意欲や実践意欲を高め、自然体験活動の普及と充実にもつながるようにした。

4 結果

参加者からのボランティアや自然体験活動に関するアンケート結果は次のとおりである。

(1) ボランティア養成研修会・自然体験活動補助指導者養成研修会におけるアンケート結果

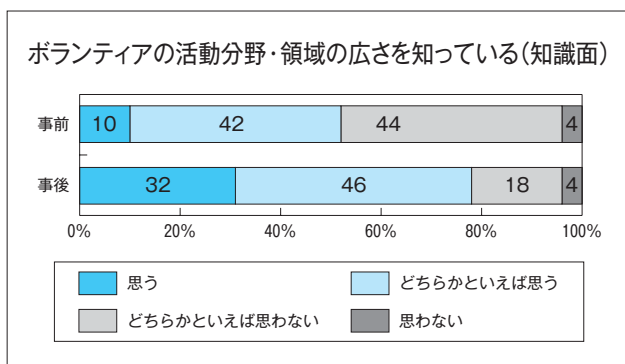
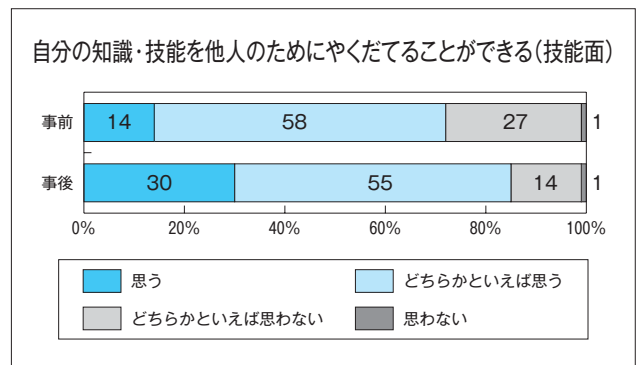
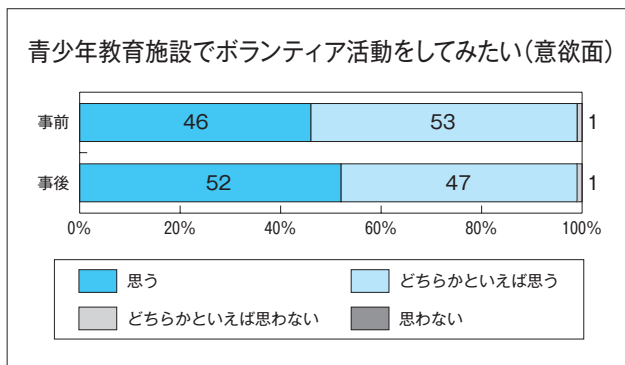




【参加者の声（アンケート記述）】

- ボランティア活動や自然体験活動の意義が分かりよかった。今後のボランティア活動などに生かしていきたい。
- 大人の方や高校生など、様々な人と交流する機会があり、大変よい経験になった。
- 若い方々とのさわやかなふれあいに接することができ、低下していた気力を再び高めるきっかけになった。
- 雨で登山に関わる研修ができなかったが、雨プログラムが準備されていて、野外調理の安全管理などの研修ができて為になったと思う。また、救命救急法の内容もとても勉強になった。
- 講義が多すぎるように思った。実習などを増やせばもっとやる気が増すと思う。

(2) ボランティアスキルアップ研修会におけるアンケート結果



【参加者の声（アンケート記述）】

- 仲間と協力して何かをつくり上げていくことや活動していくことの大切さを学ぶことができた。今後は積極的にボランティア活動に参加していきたい。
- アクティビティの指導・支援において、実際に子どもたちとふれあい、遊ぶことをとおしてボランティアのすばらしさを感じることができた。また、ごみ拾いをすることで自分自身も気持ちよくなった。

○最初は初対面の人と交流できるかとても不安だったが、いろいろな活動をととして話ができるようになり、最後は明日も研修があればいいのと思うようになった。今後もこのような研修やボランティア活動に進んで参加したい。

●アクティビティの企画や準備の時間が少し短いように感じた。じっくりと考えて準備できればいいと思う。



アクティビティの企画・準備

5 成果と課題

(1) 成果

- ① ボランティア養成研修会・自然体験活動補助指導者養成研修会前後のアンケート結果を見ると、ボランティア活動や自然体験活動に関する参加者の意欲面や技能面、知識面の意識に伸びが見られた。経験に裏付けられた講師の話や、高校生と大学生・一般を分け、それぞれ実態に応じた講義を行ったことにより、ボランティア活動や自然体験活動に関する理解を深めることができ、意欲の向上につながったことが考えられる。
- ② ボランティアスキルアップ研修会の実施により、ボランティアとしての実践力等を高めるための、阿蘇地域における環境美化活動やアクティビティの企画・立案やその指導・支援などの研修を、十分な時間をかけて行うことができた。それにより、地域の環境の実態や課題について知り、地域の環境美化の大切さを参加者が実感をもって理解していた。また、幼児に参加者が自分たちで企画したアクティビティを体験させるようにしたことで、参加者がボランティアとしての楽しさややりがいを実感することができた。
- ③ ボランティア養成研修と併せて自然体験活動補助指導者養成研修を実施し、自然体験活動補助指導者に必要な研修も受けられるようにした。これにより、参加者の自然体験活動に関する補助指導への意欲が高まり、知識が深まった様子が見られた。また、多くの補助指導者を養成したことにより、今後の自然体験活動の普及に資する体制づくりを行うことができた。



アクティビティに関わる指導・支援

(2) 課題

- ① 参加者のボランティアや自然体験活動への知識や技能等の個人差は小さくないため、研修内容や指導・支援の在り方に配慮し、適切な研修資料の準備や個に応じた指導・支援を十分行う必要がある。
- ② 参加者が主体的にプログラムを考える研修を増やすなどしながら、更にボランティアとしての主体性や判断力を高めるとともに、ボランティア活動のやりがいや責任を感じさせる必要がある。



野外調理の実習

主任企画指導専門職 福留 隆二